

今後の小高小・小高中のあり方を考える前に

1.はじめに

- 令和7年9月に市教育委員会が実施した「小高小学校・小高中学校のあり方」に関する保護者意識調査では、小中学校の保護者全90人のうち、約75%の67人から回答がありました。
- その中で、「**小高小・小高中が小中一貫校だと知らなかった**」という保護者が**20%以上**いることが分かりました。
- そのため、「今後の学校のあり方」を考える前に、まずは、「小高小・小高中がどのような学校なのか」という基本の部分を共有します。

2. 小高小・小高中はどのような学校なのでしょうか

(1) 学校の形態について

相双地区では、
「飯館村立いいたて希望の里学園」
「川内村立川内小中学園」
「大熊町立学び舎ゆめの森」

市教育委員会の提案:ここを目指したい

小高小・小高中は**南相馬市唯一の小中一貫校**

	小学校 (369校)	中学校 (205校)	義務教育学校			小中一貫校		
			一体型 (9校)	隣接型 (1校)	分離型 (0校)	一体型 (5校)	隣接型 (5校)	分離型 (18校)
制度上の区分	小学校 (6年間)	中学校 (3年間)	一体の組織 (9年間)			小学校と中学校別組織 (連携)		
教育課程	小学校課程	中学校課程	9年間の一貫課程			小学校と中学校課程を連携		
校長体制	1人	1人	1人			2人(小学校・中学校各1人)		
教員配置	小学校基準配置	中学校基準配置	一括配置			小学校、中学校規準に基づき 各々に配置		
特色的な教育	小学校単位	中学校単位	系統的なカリキュラム一体運営			連携カリキュラム		

※ 学校数は、令和7年度の福島県内の状況。なお、小中一貫校の学校数は小学校数の内数。

- 「一体型」:校舎の全部が一体的に設置されているもの。
- 「隣接型」:同一の敷地又は隣接する敷地に、複数の校舎が隣接して設置されているもの。
- 「分離型」:隣接していない異なる敷地に、複数の校舎が分離して設置されているもの。

【これまでの経過】

1. **令和元年9月に**、「小高区学校適正化検討協議会（行政区長、学校PTA役員中心）」では、『小高小、福浦小、金房小、鳩原小について、合同運営を解消し、4校を1校に統合すべき』との結論に達した。
 2. その際、以下の項目の検討が必要との意見を市に提出。

■ これを受け、4校の統合を検討していた統合準備協議会（行政区長、学校PTA役員中心）からは、**令和3年4月開校時点では、施設分離型の小中一貫教育とした開設が現実的。**
- **小高区の学校に、他校にはない特色が必要。**

■ **教育環境の安定に向けて、より良い制度化の検討が必要。**

■ 地域と良好なコミュニティ維持を図ることが必要。

(2) 学校の組織を他地域の学校と比較すると（同規模校との比較）

小学校教員定数配置基準（特別支援学級含む）

学級数	校長	教頭	教員	計	学級数より多い教員数
8学級	1人	1人	9人	11人	1人
33学級	1人	1人	37人	39人	4人

学校名 学級数8学級	教員配置の県 基準数 （校長・教頭 は除く）	実配置数	基準より多 い人数	学級数より多い 実配置数
小高小	9人	12人	3人	4人
市内A校	9人	10人	1人	2人
相馬市B校	9人	9人	0人	1人
いわき市C校	9人	10人	1人	2人

小高小は33
学級規模の
教員配置数

中学校教員定数配置基準（特別支援学級含む）

学級数	校長	教頭	教員	計	学級数より多い教員数
4学級	1人	1人	7人	9人	3人
8学級	1人	1人	13人	15人	5人

学校名 学級数4学級	教員配置の県 基準数 （校長・教頭 は除く）	実配置数	基準より多 い人数	学級数より多い 実配置数
小高中	7人	9人	2人	5人
いわき市A校	7人	7人	0人	3人
いわき市B校	7人	7人	0人	3人
いわき市C校	7人	7人	0人	3人

小高中は8
学級規模の
教員配置数

【コメント】

- 小高小・小高中とも、他地域の同規模学校と比較して、教員配置数は優遇されている。
- その理由は、原子力災害起因による復興推進加配等によるものである。
- なお、この復興推進加配がいつまで続くは明確に示されていない。

※仮に学校の形を「施設一体化の義務教育学校」にした場合、教員の数を計算する国の基準は、今の小学校・中学校と変わらない。

しかし、小学校と中学校の教員が同じ学校の職員（ひとつのチーム）になることで、マンパワーの確保にもつながる。